

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 能勢町教育委員会
2. 研究主題 : [調査研究Ⅰ]魅力ある学校統合事例の創出
3. 研究タイトル : 次代の能勢を担うグローバル人材の育成
～「自分がすき!」「仲間とともに!」「能勢がすき!」「夢がいっぱい」の子どもたちの育成をめざして～
4. 研究課題 : **【調査研究Ⅰ】**
ア. 統合後の学校が新たな学区の地域コミュニティの核として高い教育機能を発揮するための方策に関する研究
①保護者と児童生徒と地域の間をしっかりとつないでいくこと
②地域のことを学び、地域の行事等参加しながら、地域の一員であることを自覚させること
③地域の願いに応える学校運営をすること
エ. 統合を契機とした魅力的な学校づくりに関する先進的な取組の研究
①能勢町スタンダードの授業を小中全教職員共通認識の上、実践する
②学習方略の研究をし、一人ひとりの学び方を支援する。(アフタースクールの小学校自主学習教室、中学校自立学習室につなぐ)
③ICTを活用した魅力ある授業を展開する

5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

本町は、平成28年4月に140年以上歴史のあった6小学校2中学校を再編整備し、施設一体型小中学校「能勢ささゆり学園」を開校した。それに伴い各地域にあった「地域の重要な拠点」の一つであった学校を閉校したため、地域と学校のつながりが希薄になるなど、再編整備をする上でこれまで培い、養ってきた「地域の教育力」の低下・衰退が危惧された。そのような状況を踏まえ本調査の研究のねらいを「次代の能勢を担うグローバル人材の育成」と定め、そのねらいに沿って、学校・家庭・行政が互いに支え合い町ぐるみで子どもたちをどう育てていくかについて研究を進めた。

(2) 調査研究の実施状況 (平成30年度)

4月	
5月	
6月	能勢小学校グローバル能勢授業①(能勢の歴史) 能勢小学校グローバル能勢授業②(三草山) 能勢小学校グローバル能勢授業③(能勢の歴史)
7月	「秋田県由利本荘市、東成瀬村」の視察研修 能勢中学校授業研究会① 能勢小学校グローバル能勢授業④(人形浄瑠璃～能勢三番叟～)
8月	能勢小学校グローバル能勢授業⑤(人形浄瑠璃～能勢三番叟～)
9月	日本授業UD学会全国大会(筑波大学附属小学校)へ参加 能勢小学校授業研究会①
10月	中高合同授業①、② 推進会議の開催①、② 学校教育魅力化フォーラムへ参加 授業づくり研修会①(道徳科) 能勢小学校授業研究会②
11月	能勢地域小中高一貫教育連携型中高一貫教育研究発表会 小中一貫全国サミットinおおつちへ参加 能勢小学校授業研究会③ 授業づくり研修会②(愛着障害理解) アフタースクール支援員の配置
12月	能勢小学校授業研究会④ 能勢中学校授業研究会② アフタースクール支援員の配置
1月	能勢中学校授業研究会③ ケース会議 アフタースクール支援員の配置
2月	授業づくり研修会③(学力向上) 業務改善研修 能勢小学校授業研究会⑤ ケース会議 アフタースクール支援員の配置
3月	体力向上会議 アフタースクール支援員の配置

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>小中高一貫教育研究発表会において、4本（道徳・算数・体育・家庭科）の授業を公開し、授業後にはそれぞれに有識者をお招きし、学びを深めることができた。特に道徳の授業では、よのなか科の手法を取り入れ、中高生がともに「元さんの手紙」を読み、考えを深めることができた。（資料；①②③）</p> <p>また、小学校道徳科の授業研【講師；杉中康平】を小中合同道徳研修と位置づけ、今後の道徳の学び方や評価について研修を行うことができた。（資料；⑧）3学期には、学力向上・業務改善・カリキュラムマネジメント・支援教育の選択研修を実施した。意欲の高い教員の参加で、通常の研修にも増して熱心に学ぶ姿勢が見られ、次年度に繋がる良い研修となった。（資料；⑩）</p>
<p>学校支援地域本部事業を活用しながら、地域の方々の協力を得て、グローバル能勢（能勢のふるさと学習）の授業（能勢の歴史について、ミドリシジミ類（ゼフィルス）の生態と保護について、能勢の浄瑠璃について）を実施することにより、能勢町をより深く学習することができた。</p> <p>また、学校支援地域本部と今年度からスタートしたコミュニティ・スクールが連携し、地域の方々を積極的に学校に招き、学校行事の支援（小中のマラソン大会の見守りや花いっぱいプロジェクト）、学習支援（お月見だんごづくり、歌垣山登山、理科実験、家庭科実習など）、登校時のあいさつ運動、学校付近の環境整備（子どもが遊べる川の整備・みんなで学ぶことができる展望棟の整備など）を行った。今後さらに活動を広げていく。（資料；⑪⑫）</p>
<p>秋田視察研修・日本授業UD学会全国大会・小中高一貫教育全国サミットに参加した教員等は、研修で学んできたことを学校教育に活かす姿が見られた。具体的には、授業内で子どもに深い学びを促す授業形態の工夫・掲示物の充実・家庭学習習慣を付けさせるための工夫などである。また、参加した教員は、職員会議等で報告をし、他の教職員への周知に努めた。（資料；④⑤⑥）</p>
<p>福祉係と連携し、小中高SC・SSW連絡会を年間2回実施することができた。町内の高等学校に進学した生徒について情報交流をすることができた。</p> <p>また小学校全学年と中学校1年生において、福祉係と連携をしたスクリーニングを行った。問題行動や不登校等の未然防止の視点を踏まえた会議となり、今後の生活指導の進むべき方向を示すものとなった。特に小学校での実施が有意義であった。</p> <p>ケース会議にSSWが出席することで、情報の整理や具体的な手立て・分担等、充実した会議となった。児童・生徒の指導・支援の方向性を的確に示し、問題行動・不登校の防止につながった。</p> <p>SCは日々の相談活動に加え、教室に入りにくい児童・生徒の支援を積極的に行い、学校へ登校するきっかけとなった。</p>
<p>スクールバス通学による体力低下が懸念されるため、能勢町の子どもたちの体力向上に町立保育所・私立幼稚園・能勢小学校・能勢中学校が協働した「能勢町体力向上ミーティング」を開催した。その際、大阪経済大学の若吉浩二教授を講師としてお招きし、体力向上について講義をしていただいた。町内の体力向上というミッションを共有することで、保幼小中が連携をする良い機会となっている。</p>
<p>小中学校で、思考力・表現力の育成を目標とした「授業改革」に取り組んだ（資料；⑦⑨）。その結果、授業中に話し合うことや考えを深めることができ、アンケートで「授業が楽しい」と答える児童が85%となった。</p> <p>大阪府社会性測定用尺度調査において「自己肯定感」29年度調査中学1年生4.02、2年生4.11であったが、平成30年度2学期において中学1年生4.10、中学2年生4.20、中学3年生4.17と昨年度より向上した。</p>
<p>第6校時終了後、小学生を対象に地域のボランティアの方々の協力のもと、算数・数学検定や漢字検定の合格を目標に自主学習や検定を意識したチャレンジテストを実施した。また、ICT機器を活用し、各学年ごとのドリル学習を実施した。</p> <p>中学生は、ICT機器を活用し、地域の学習塾と連携協働して自立学習塾を実施し、受講者の学習を深めるための支援員を配置した。</p> <p>算数・数学検定（本検定）は小学生だけでなく、中学生や高校生も受験できるよう、夏休みと3学期の放課後に実施した。</p>

教員1人に1台配置したタブレット型のパソコンを活用した授業を小中ともに取り入れているが、ICT機器を活用した魅力ある授業をより深めるための環境整備を行うため、先進地の学校へ視察を行った。

(2) 成果物等

①能勢地域小中高一貫教育連携型中高一貫教育研究発表会	指導案集
②	グローバル人材の育成
③	学びの軌跡 公開授業・研究 討議まとめ
④秋田学校視察研修報告書	
⑤日本授業UD学会全国大会研修報告書	
⑥小中一貫教育全国サミットinおおつち参加報告書	
⑦小学校-校内授業研・研究討議のまとめ	
⑧道徳科学習指導案 (2018.10/18実施・講師；杉中康平)	
⑨中学校-確かな学び推進事業担当者作成 TMニュースレター	
⑩NEW CREATE (教育委員会便り)	
⑪能勢ささゆり学園コミュニティ・スクールがスタートしました	
⑫能勢ささゆり学園コミュニティ・スクールだより	

(3) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会と地域学校協働活動の連携・協働の充実 ・福祉と連携をした児童・生徒支援 (スクリーニング等) ・支援教育を軸とした学校運営に関する研究・推進 ・新学習指導要領に対応した学びの研究 (カリキュラムマネジメント等) ・推進 ・能勢町の子ども体力向上 (「能勢っ子！かけっこ！日本一！」)
